

国等	自己の計画	リモートセンシング	科学技術の役割	その他
カナダ	3年前宇宙計画を定めた見直し - 通信、航行、地球観測 - 科学探査及びデータ処理に重点 - RSは、衛星出現を予定して、同時に2-3衛星の追跡や受信処理のことで4つの受信局の設置と全天候型センサーの開発と - RSは、海水・氷山のモニター、雪と洪水のmapping、穀物、森林監視、汚染監視、土地利用mapping、資源体設用内陸/沿岸探測/開闢 - 科学分野では、宇宙天文学、材料科学、生物、物理実験と - 国際協力の計画の柱で、最近も米加で"地球データの見直し"計画	- RS dataは、検査途国の技術に用いてはいる - 小委員は、種々のRSシステムの互換性の促進を	宇宙技術の成果を平等かつ実用ベースで全ての国にaccessibleにする必要	- アフリカのためのUNESCO主催のstudyに協力した。 - 加のRSセクターに3割の資源を割り当てる計画との協力関係
オーストリー	- RSは、アルプスの氷流、森林の被害と管理に使用している - オーストリアはESAとの協力で宇宙活動と展開 - スペースホ参加。	RSが食料とエネルギー問題の解決のため人類にとって有用なものとして強い調査役割を	UNIDOと共に(12回67年度)大陸観測用について検討中だが、宇宙開発は近い将来有用化し、1か1年で検討する計画はしている。	平和利用(12年度)6月20日〜7月1日までウィーンで開催されるので、通常議程の傍ら宇宙科学のDonatelloや宇宙開発計画の奇想天外が用意されている。
西独	- 宇宙活動はスペースホの他欧州合同宇宙計画のフレームワーク内で実施 - 本年は、GARP参加の気象衛星、欧州地球観測衛星利用実験衛星、不惑衛星探査衛星とNASAも共同の紫外探査、大気地球探査の5つを打ち上げる。 - シンフォニーはうまく作動した。	「data」「天然資源」「自然環境」の定義のclarifyが必要。dataは「全球的」「地域的」の区分が必要、本作に小さく作業グループを作って検討を。		UN/FAO共同のトレーニングセンターを昨年開いた。

国等	自国の計画	リモートセンシング	科学技術の役割	その他
日本	77年のG.C.B.を含み、1986年までに12の衛星計画を - RS受信用地上局建設を。			- UN応用計画支持 - UN宇宙会議は有用と考えるが、内容・年次等の十分はつきり
オーストラリア	- RS data は、海洋学、地学、探査、mapping、農業、林業に有用と考えている。サウエルdata は生態系調査を支援中 - Viking 用2局と海軍南開局のも追加局がoperationしている。	- RSの定義について今会期で合意に至ることを望む。RSの利用につきいまだ障害も少なくはない。 - RSの定義について、技術的考慮事項の必要はあっても、無用な言葉の使用によってRSの利用を阻害することはない。		
イタリア	シャトルのラボ計画が進んでいる。		法小委と十分協力して進めよう。	
ソビエト連邦	- ソ連は、インコステス計画を通じて社会主義諸国との協力を進めており、東欧諸国の社会主義国からの参加をソ連の宇宙飛行実験に数多く用いている。 - ソ連は、RSシステムの確立を決定しており、国々間には両国間の協定をベースに情報交換 - ソ連は、米、仏、印、英等の他の国の科学者との共同実験も行っており、この活動は拡大する用意がある。	RSの定義については、50m以下の解像度のものはglobalとして自由と見做すものについてはregulatory measureを保持しなされるべき。		

国等	自乙の計画	リモートセンシング	科学技術の役割	その他
チェコスロバキア	• 昨年11月の協定に基づき、1978~1983年の間の宇宙飛行士参加のため、チェコの志願者がソ連のガガーリン宇宙飛行士訓練センターに入っている。 • 地球資源と環境のRS作業ループも昨年設置された。 • プラハ宇宙通信地上局がインフラストラクチャーに参加して稼働中 • インフラストラクチャーのレーザレーダの設計と建設を行い、Great Arc計画の一部として他の社会主義国、埃、印、ボルネオで稼働中。 • 又、新自動制御レーザレーダの実用テストも近く行。 • 医学、生物、宇宙線測定等の科学実験にも貢献している。			
東独	• 東独人のグループがガガーリン宇宙飛行士訓練センターで訓練を開始して、他インフラストラクチャーのもとで宇宙計画を進めている。 • 東独はソ連その他の国の宇宙飛行のための装置の提供も行っている。これは相互非排他国の宇宙活動参加の有効な方法である。	• RSシステムの組織的課題の討議の前に法的教条のclarificationが必要 • ソ連のglobal/localの区分も支持。国家主権の侵害にかつてのRS dataの配布はさけるべき		
ルーマニア	• RS受信局の設置を決めた。	• RSは、法的、政治的、経済的側面を有しており、国家主権の保持の原則について考えなければならぬ。 • RS衛星についてUNが調査しければdataの受信と分析のナショナルセンターを有する経済先進国のみがRSを進めることになる。技術的援助を十分に行うべき。		

国等	自国の計画	リモートセンシング	科技小委の役割	その他
ポーランド	- 宇宙活動は、インタコスモス計画の枠内で進んでいる。 - ランドサットからの写真をもらい、ソ連からもdataをもらってPSEを進めている。 2つの気象衛星data受信局 - Polaris衛星通信局が稼働中。 - 宇宙開発センターが設立され、宇宙物理その他の科学も進んでいる。 - 昨年の協定により2人の宇宙飛行士がソ連のガガーリン訓練センターでトレーニングを始めている。			
モンゴリア	- インタコスモス計画の一部が実施され、DBSと通信の地上局建設の協定が結ばれた。 - 昨年7月の協定により、1978～1983年のソ連の有人飛行が可能となったことは重要	RS dataは、globalとlocalに分け、天然資源dataについては国を主権を侵害して用いてはならない。		UN宇宙会議には反対はしないが、慎重に。
インド	- ATS6を用いたSITE計画は昨年7月31日に終了 1978年ソ連からの地球観測衛星を打ち上げ、水資源、森林、土壌調査に用いる。 又、衛星通信がソ連の協力で可能 10年以内にDBSを計画 - シンファニーを用いた実験につき合意に至った。	RS内容は重要だが、それが資源問題に答えようという考えはまだない。小委は10分以内に対応する能力の必要性に対しては、是とを校対すべき		- UN応用計画のもとでSITE冬期スクールを行な - UN応用計画の技術援助の拡大を。 - UN宇宙会議を支持
パキスタン		- 小委は、RS dataへの要求と天然資源に係る主権侵害のバランスを - sensing国は、RSを通じて他国への不当な進展をおさえて - 国内家内利設置は賛成		- UN応用計画を支持し、その拡大を - UN宇宙会議を強く支持

国等	自己の計画	リモートセンシング	科学小委員の役割	その他
4 リ	米の協力のもと、RS受信局を計画しており、千円程度の管理下で1978年に機能する見込み。	地域計画は重要であり、アフリカRS会議やアジアの動きも歓迎する。	- 宇宙技術の利益をすべての国が享受できるように、基本の確立を目指す。 - UNは、国の主権と安全を保障する役割を果すべき。	- UN応用計画を支持、これを拡大すべき。 - 本年セクターの1つが宇宙技術である。 - UN宇宙会議を支持し、情報配布、国際協力、政治/法律問題を取り上げべき。
イラン	- イランはランドサット地画局を設け、農業、土地利用、地図作成の分野でリモートセンシングを用いる。 - 特に、地形図、海洋汚染、土壌侵蝕の分野でRSを利用。 - イランは、乾燥による土壌侵蝕と多量の水による表面土壌流出の問題が重要で、識者米の協力を要する。	RSの解像度から一般の方法では使えないので、測定器等の発展を促進すべき。	- ペルシャ湾産業化として重要であり、海洋汚染対策を取り上げるとの意義を認める。 - 河口地帯に肉し、地形などの特徴の同定が準備できたはずであり、このよう評定をとりあげず。	
UNESCO	- 通信、RSの分野の研究と訓練のために宇宙技術利用。 - UNDP/ITUと協力して又は単独でアフリカ、アジア、ラオス、アラブのメンバートレーニングセクター等。 - シンポジウムあり、ナロビ会議とパリ本部をめぐり、各種の発表をした。			
IAF	「国際的枠組内における宇宙における科学技術の現状」のレポート提出			
FAO	- 途上国へのワークショップ、訓練コース、トレーニングセンター、ローマの施設でのRS会場のOJT等。 - 農業統計と森林統計にRSを利用。 - 土地利用、森林資源調査等で			※ 最近のテーマ例 - アジアの浸蝕マッピング - スーダンの土地利用調査 - ネールの水質管理情報 - ボリビアの森林 - カメルーンの野生動物

途上国へ技術援助 ※

